

## 入選

### 助けてくれたボランティア

岡山県 児島中学校 3年 池上 雅泰

この世の中に、こんな立派な人々がいるだろうか。それは、ボランティアの人々だ。

僕の祖父母の家は、真備町である。7月7日に洪水の被害にあい、家が水没した。はじめの3日間は、家族・親戚が力を合わせて片づけをしたが、いくらがんばっても片づかない。そんなとき、ボランティアの方々が手伝いをしてくれると聞き、急ぎょボランティアセンターに電話をしてみた。

3日後、5名のボランティアの方々が来てくださった。その方々は、

「こんにちは。なんでもしますよ。」

と気持ちよく言ってくれた。僕たちは、まだ畳やタンスが残っているので、外へ運び出してもらうことをお願いした。すると、

「いいですよ。」

と、かけ声を出しながら、重たくて汚れたものでも一生懸命運んでくれた。彼らは、体のありとあらゆるところから、玉の汗が吹き出していた。僕が、

「ありがとうございます。飲み物を飲んでください。」

と言うと、

「自分で持ってきてありますので。」

とおっしゃり、自分のかばんから飲み物を出して飲まれた。

僕は休憩のときに5名の方々に、

「どちらから来てくださいましたか。」

と聞いてみた。

彼らは、東京・宮城・茨城・大阪・倉敷からきた方々だった。茨城・宮城の方々は、以前私たちと同じように被災された方々で、

「僕たちもあのときは助けてもらったので、恩返しがしたくてやってきました。」

とおっしゃった。東京・大阪・倉敷の方々は、

「大変なときはお互い様だから。」

と言ってくださった。

はたして、僕にもボランティアの方々と同じような行動がとれるだろうか。交通費や宿泊代も自分で払い、暑い中、縁もゆかりもない人のために行動できるだろうか。

僕は、全国からたくさんのボランティアの方々が助けにきてくださっていることを知った。

「世の中には、こんなに親切な、神様のような立派な人がたくさんいるんだなあ。」

と家族で話した。ボランティアの方々は、泥だらけになりながらも、

「元気で、負けずにいっしょにがんばっていきましょう。」

と励ましてくださった。

僕たちは、胸がいっぱいになり、泣きそうになった。そして、これから先、ボランティアが必要なときは、絶対に参加し人の役に立ちたいと思った。